

	一般的名称	報告の概要
611	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	重症敗血症患者653例を対象とした多施設共同無作為化二重盲検プラセボ比較試験において、静注用免疫グロブリンの補助療法は28日死亡率においてプラセボと有意な差を認められなかった。
612	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	重症敗血症患者を対象とした14の無作為化臨床試験のメタアナリシスにおいて、質の高い試験のみを解析した際、ポリクローナル免疫グロブリン静注補助療法は死亡率を低下させなかった。
613	クラリスロマイシン	一医療機関においてビノレルピンを含む化学療法が開始された非小細胞肺癌患者を対象とした後ろ向きコホート研究において、クラリスロマイシン併用により好中球減少のリスクが高まることが示唆された。
614	フルコナゾール	12例の健常人を対象とした無作為交差試験において、ポリコナゾールあるいはフルコナゾールがフェンタニルの血中濃度を増加させることが示唆された。
615	ジゴキシン	うっ血性心不全のみられない心房細動患者へのジゴキシンの長期投与は死亡リスクを高めることが示唆された。
616	リスベリドン	定型抗精神病薬デボを使用している統合失調症の患者において、長時間作用型リスベリドンへの切り替えにより、プロラクチン値が高まることが示唆された。
617	ジクロフェナクナトリウム	長期ジクロフェナク使用患者において、主要な心筋梗塞の危険因子のない患者でも心筋梗塞の起こる可能性が示唆された。
618	ジクロフェナクナトリウム	脊椎麻酔下で股関節形成手術を実施した患者において、NSAIDsを投与された群では術後5日間での出血量が多いことが示唆された。
619	カルバマゼピン	中国人患者におけるHLAB* 1502とカルバマゼピンによるスティーブンス・ジョンソン症候群の関連性が報告されているが、HLAB* 1502は白人集団でのカルバマゼピンによる過敏症のマーカーにはならないことが示唆された。
620	カルバマゼピン	漢民族において、カルバマゼピンによるSJS/TENにはHLAB* 1502遺伝子が強く関連することが報告されているが、斑状丘疹状皮疹、過敏症症候群などの有害な皮膚反応との関連性は示唆されなかった。
621	カルバマゼピン	台湾の漢民族において、HLAB* 1502とSJSの間に強い関連性が見られた。
622	エポエチン α (遺伝子組換え)	一医療機関において、末期腎疾患患者90例を対象として診療録を調査したところ、エリスロポエチン投与により増殖性網膜症の罹患率・重症度が高まることが示唆された。
623	非ピリン系感冒剤(3)	アセトアミノフェン誘発性の劇症肝炎の患者において、長期抗痙攣薬投与によって死亡率が増加することが示唆された。
624	リスベリドン	新規抗精神病薬単剤投与中の統合失調症患者において、リスベリドンを投与された患者ではQT間隔延長が見られた。
625	ジクロフェナクナトリウム	長期ジクロフェナク使用患者において、主要な心筋梗塞の危険因子のない患者でも心筋梗塞の起こる可能性が示唆された。
626	ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル	肝細胞癌に対する経カテーテル的肝動脈塞栓症をおこなった535例のうち、左骨動脈からのアプローチ(TAE)群で穿刺部疼痛が29例、手指の知覚異常が7例、大腿動脈からのアプローチ群で皮下血腫が10例、穿刺部の疼痛が14例みられた。